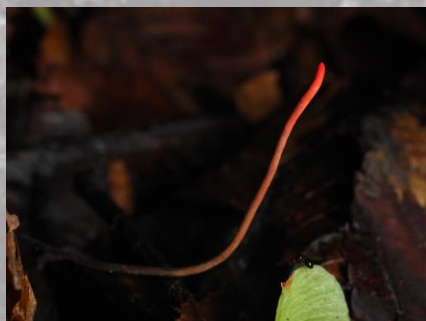


冬虫夏草というものに昔から憧れを抱いていた。“虫からキノコが生えてくる”という何とも不気味な姿が妙に惹かれる。いつだったか、セミの幼虫からニョキっとキノコが生えている姿を図鑑で見たのが強烈に印象に残っている。以前、台湾修学旅行の引率の際、漢方屋の冬虫夏草を撮影しようとして店主に怒られたのも懐かしい。この冬虫夏草、カメムシから生える「カメムシタケ」なるものもあるというのだ！カメムシ好きとしてはぜひともこいつを見つけてみたい。冬虫夏草は意外と身近にも生えているらしく、猿江公園でも探してみたのだがまだ見つからない。都市公園でも見られるクモタケという種類が一番見つかりそうなのだが、まず宿主となるキシノウエトタゲモが猿江公園では未発見だ。（今年の春に学校横の路地でキシノウエトタゲモ“らしきもの”をミズキが見つけている）。

猿江の冬虫夏草は今後に期待、ということでひとまず高尾山でカメムシタケを探しに行ってみた。冬虫夏草は湿度を好むのでベストシーズンは梅雨の頃らしいが、この時はすでに9月。まあとにかく、沢沿いに登山道を登っていく。普段はスタスタと通り過ぎてしまうところだが、なるべくゆっくり、地面を凝視しながら進んでいく。あれは落ち葉だ、これは石、紛らわしい枝があるなあ…といった具合にこの作業をしばらく続けると……飽きた。飽き性の私は見事に飽きた。高尾山でのカメムシタケの発見例は沢山あるので、いることは分かっていたがどこかは分からない。沢沿いが良いと言ったって、初心者が手あたり次第探すにはあまりに広い。しかもシーズンは過ぎてしまっている。そんな言い訳をぼやきながら、つくづく根気が足りないなあと思いつつ、少し歩みを早めて登山を続ける。それでも地面を睨みつけることはやめなかった。もうすぐ山頂になっちゃうな…と落胆し始めたその時、**視界の隅にオレンジ色のひもが見えた**。こ、これはもしや！！焦る気持ちを抑えて落ち葉をどけてみると、見事、**ひもの先にカメムシの死骸を見つけた！カメムシタケ発見だ！**こんなテキトーな探し方でも見つかるものなのか…（たまたま運が良かっただけ）。周囲を見ると、もう一つカメムシタケを発見できた。一度実物を見つけたあとは、落ち葉の地面に鮮やかなオレンジ色がかなり目立つことに気付く。それにしても、カメムシの肩の部分からニョキっと生えるキノコの姿は**なんだか異様でコワカッコイイ**。図鑑の中だけの世界かと思っていたが、実物を自分で見つけれられてとても嬉しい。これをきっかけにもっと色んな冬虫夏草を見つけてみたくなる。

ベニツチカメムシ（Vol.91）の時と同様、嬉しい発見にニンマリしながら山から降りた。高尾山は登山客が多いので漏れ出る笑みを隠すのに必死だった。この日もこのあと予定があって、山を駆け下りたあとスーツに着替えて都庁に向かった。やれやれ、もうちょっとゆっくり生き物観察をしたいものだ。



発見時の様子。鮮やかなオレンジ色のひも状のもの（子実体）がひょろひょろと伸びているのが目に入った。カメムシは落ち葉の下に埋もれている。



冬虫夏草 カメムシタケ *Ophiocordyceps nutans*（未成熟） 9月11日 高尾山
クサギカメムシの死骸から伸びるカメムシタケ。冬虫夏草は虫などから栄養をとり子実体を伸ばす。この個体は未成熟のようだが、成熟すると先端が膨らみ胞子を飛ばす。同じ場所でたくさん見つかることもあるそうだ。いったい、いつどうやってカメムシに侵入するのだろう。そしてカメムシはどのタイミングまで生きているのだろう。



カメムシの肩（？）の部分からキノコが生えている。もちろんカメムシは死んでいる。こんな風にぐにゃぐにゃ曲がっているものもあった。

